

## V. 研究所図書館

### 1. 資料収集

2018年度は、ジェトロ・ビジネスライブラリー東京の閉館およびジェトロ・ビジネスライブラリー大阪の資料閲覧コーナーへの規模縮小に伴い、両ライブラリーの蔵書のうち、約3万点が研究所図書館に移管された。2018年度末の蔵書数は約70万点、各種資料の蔵書数及び受入数は表V-1、表V-2のとおりである。

研究所図書館は、研究所創立以来、開発途上国の政府刊行物、雑誌・新聞、海外の大学・研究機関の調査報告書、統計資料など現地の一次資料に留意して収集を行ってきた。特に、海外の主要な研究機関、政府機関等と研究所図書館との間で行われている出版物等の資料交換制度は、商業ルートでは入手し難い出版物の収集において重要な役割を果たしている。

開発途上国の刊行資料については、各国の書店や政府機関から直接購入しているもの及び海外研究員や海外出張者の協力により現地で直接収集しているものがある。2018年度に後者の方法により資料収集を行った国は、インドネシア、トルコ、ベトナム、ラオス、オランダ、中国、香港の7カ国・地域であった。

表V-1 資料種別別蔵書数（概数）

(1)図 書・年刊（冊） （内訳） 洋書 和書 アジア・アフリカ諸語（中国語・韓国語を含む） 別置資料	500,100  246,100 79,400 109,000 65,600
(2)統計資料（冊）	111,100
(3)雑誌（タイトル数）	3,700
(4)新聞（タイトル数）	460
(5)マイクロフィルム（リール）	57,700
(6)マイクロフィッシュ（点）	2,700
(7)CD-ROM,DVD,ビデオ等（点）	6,500
(8)地 図（枚）	54,100

※OPAC 検索対象外の電子ジャーナル、データベースを除く

※非公開資料を除く

表 V-2 資料種別別受入数

	購入	寄贈交換 等	計
(1) 図書・年刊（冊子体）	1,906	24,420	26,326
(内訳)			
洋書	1,012	5,086	6,098
和書	183	17,497	17,680
アジア・アフリカ諸語（中国語・韓国語を含む）	711	1,837	2,548
(2) 統計資料（冊子体）	578	1,206	1,784
(3) 製本雑誌	1,089		1,089
(4) マイクロフィルム（リール）	42		42
(5) マイクロフィッシュ（点）	26		26
(6) CD-ROM, DVD, ビデオ等（点）	390		390
(7) 地図（枚）	0		0

※ビジネスライブラリーからの移管資料は、「寄贈交換等」に含まれる。

※非公開資料を含む。

※マイクロフィルムには劣化のための再作成を含む。

## 2. 資料整理・保存

### (1) 目録

2018年度は、合計5,047冊（点）の整理を実施した。その内訳は、和洋書3,357冊、アジア諸言語資料1,690冊（中国語524冊、朝鮮語420冊、タイ語385冊、スペイン語192冊、インドネシア語177冊など）、年刊資料等10冊、CD-ROM・DVD124枚である。

作成した目録データは、研究所の蔵書目録データベースへ登録すると同時に、国立情報学研究所（NII）のオンライン総合目録データベース（NACSIS-CAT）へも登録した。NACSIS-CATへの新規登録数は2,655件で、参加1,337館中第17位（2017年度：第11位）であった。これは、研究所図書館の迅速な整理と、他機関にはない貴重な資料を多数所蔵していることを示すものである。

### (2) 雑誌記事索引

2018年度の雑誌記事索引採録件数は、4,179件（2017年度：4,455件）であった。

表 V-3 2018年度雑誌記事索引採録数

V. 研究所図書館

言語	英語	日本語	中国語	ロシア語	スペイン語	ポルトガル語	フランス語	アラビア語	インドネシア語	韓国語
合計	2,336	261	745	121	349	68	87	120	65	27

(3) 資料の保存

新聞の長期保存と利用のため、新聞のマイクロフィルム化を行っている。2018年度は、マイクロフィルム化の対象となっている16紙のうち3紙について、業務委託による媒体変換を行い、38リール作成した。

3. 利用者サービス

(1) 閲覧

2018年度の研究所図書館の閲覧利用状況は、表V-4のとおりである。外部閲覧者数については、昨年度より減少し4,785人（2017年度：5,000人）となり、蔵書貸出についても同様に6,105冊と減少した（2017年度：7,186冊）。資料複写枚数についても、昨年度より大幅に減少し、55,878枚であった（2017年度：65,979枚）。

一方、研究所図書館見学は59件548人（国内381人、国外167人）と昨年度より件数、人数ともに増加した（2017年度：55件442人）。

表V-4 2018年度閲覧利用状況

区分	2017年度	2018年度
① 外部閲覧者数 (うち土曜日)	5,000人 478人	4,785人 479人
② 蔵書貸出冊数	7,186冊	6,105冊
(うち内部)	4,711冊	4,138冊
(うち外部)	2,475冊	1,967冊
③ 資料利用冊数	66,136冊	31,913冊
④ 資料複写枚数	65,979枚	55,878枚
(うち郵送依頼分)	4,768枚	3,993枚
⑤ 研究所図書館見学	55件(442人)	59件(548人)

(2) 利用者アンケートの実施

研究所図書館では毎年、外部利用者及び職員の満足度を調査し、利用者サービスの向上に役立てている。

表V-5 2018年度利用者アンケート結果

	配布総数	回収数	回収率	総合役立ち度 (上位2位の割合)
外部利用者	335 通	313 通	93.4%	98.0%
職員	225 通	72 通	32.0%	100.0%

### (3) 研究支援

図書館間相互貸出サービスとして、職員からの依頼により、外部図書館から 338 冊の資料を借り受け、233 件の論文等の複写取り寄せを行った。

また、研究所図書館の各種サービス及びデータベース利用方法に関する情報リテラシー研修会を全職員、研究所新入職員、IDEAS の日本人研修生及び外国人研修生、客員研究員を対象としてそれぞれ実施した。

## 4. 資料・情報相談

開発途上国の経済、政治、社会などに関する具体的な事情または資料について各方面から寄せられる照会に対しては、所内の研究者の協力を得ながら主に研究情報レファレンス課が回答を行っている。

### (1) 照会・相談件数

2018年度の研究所全体の主な照会・相談件数は表V-6のとおりである。

表V-6 2018年度主要照会・相談件数

対象 主題	対象 地域	開発途上国全般	アジア全般	中国・台湾	韓国・北朝鮮	東南アジア	南アジア	中東	中南米	アフリカ	中央アジア	オセアニア	東欧・CIS	照会事項合計
政治		0	1	1	1	41	10	2	21	6	0	0	0	83
社会		1	1	1	0	14	5	1	3	2	1	0	0	29
経済		1	3	7	2	28	2	2	4	1	1	0	0	51
法律		0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	5
労働		0	2	0	1	4	1	1	0	0	0	0	0	9
人口		0	1	3	0	1	3	0	0	0	0	0	0	8
金融・投資		0	0	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0	9

V. 研究所図書館

援助	4	0	6	1	2	1	0	0	2	0	0	0	16
貿易・通信・ 運輸	3	2	6	0	7	4	1	0	1	0	0	0	24
商業・流通・ サービス	0	0	2	0	8	2	1	0	1	0	0	0	14
環境	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
資源・エネ ルギー	0	0	1	0	2	0	0	3	0	0	0	0	6
農林・漁業	0	4	3	0	3	1	1	2	2	0	0	0	16
工業・技術	0	3	6	0	2	2	0	0	0	0	0	1	14
企業	1	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	5
教育	1	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	7
地理	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	4
一般・その 他	6	4	4	1	10	1	1	3	2	2	1	0	35
財政	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
総計	18	22	46	7	142	34	11	37	17	5	2	1	342

5. 資料展示会・講演会

図書館の利用拡大と途上国理解のための啓蒙活動を目的として、資料展示会と講演会を実施した。(表V-7)

表V-7 2018年度資料展示会及び講演会開催一覧

開催月	内容	開催場所
2018年6月	上智大学アジア文化研究所共催講演会「エチオピア女性の湾岸諸国への出稼ぎ労働～なぜ彼女たちは旅立つのか?～」	アジア経済研究所 C21会議室
2018年6月～7月	上智大学アジア文化研究所共催資料展「エチオピアの女性たちの光と影～タペストリーと資料で綴るその歴史と現在～」	アジア経済研究所図 書館1階閲覧室
2018年10月	幕張PLAY株式会社共催講演会「トルコのコーヒー事情」	幕張BASE
2018年10月	幕張PLAY株式会社共催講演会「文化の架橋トルコ～多宗教、多民族が暮らしてきたトルコの魅力～」	アジア経済研究所図 書館1階閲覧室

V. 研究所図書館

2018年10月～11月	幕張PLAY株式会社共催資料展「新興国を旅する—トルコ—」	アジア経済研究所図書館1階閲覧室
2018年11月	国立国会図書館共催平成30年度アジア情報研修「東南アジア諸国の政府情報—日本語と英語による調査を中心に—」	国立国会図書館 関西館 第一研修室
2018年11月	東京大学経済学図書館、東京大学総合図書館、U-PARL（東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門）、東アジア・アセアン経済研究センター共催講演会「貿易されてきたのはゴミなのか資源なのか —ブックトーク・著者が語る『リサイクルと世界経済』」	東京大学総合図書館別館（地下）ライブラリープラザ
2018年11月	「貿易されてきたのはゴミなのか資源なのか —ブックトーク・著者が語る『リサイクルと世界経済』」	東京大学経済学図書館
2018年12月	東京外国語大学附属図書館共催講演会「ベトナム社会では誰でも出世できるのか? —ブックトーク・編者が語る『多層化するベトナム社会』」	東京外国語大学附属図書館ラーニングcommons
2018年12月	「ベトナム社会では誰でも出世できるのか? —ブックトーク・編者が語る『多層化するベトナム社会』」	東京外国語大学附属図書館

6. ジェトロ図書館情報システム

図書館システムのメジャーアップデートを行い、検索機能の向上を目指した。

7. 図書館間協力・交流

(1) 図書館間相互貸借・複写

国立情報学研究所 NACSIS-ILL システム、専門図書館協議会参加館間等の貸借を合わせた貸出受付点数は 995 冊、複写受付件数は 330 件であった。国立情報学研究所の統計情報によると、研究所図書館の NACSIS-ILL による他機関への図書の貸出冊数の実績は 937 冊で、加盟している 1,624 館中第 6 位で、高いランキングを維持した（2017 年度：1460 館中第 6 位）。

**(2) 図書館共同利用制度**

図書資料の利用促進を目的とした「図書館共同利用制度」は、協定締結機関が相互の構成員への個人貸出及び図書館間の相互貸借のサービス提供を行うものである。同制度を利用した今年度の個人貸出冊数は659冊であった。また、2018年度は新たに早稲田大学図書館とも共同利用制度の覚書を締結した。

表V-8 「図書館共同利用制度」締結機関

No.	機関名	締結日
1	神田外語大学附属図書館	2012年12月20日
2	一橋大学附属図書館	2014年1月15日
3	東京外国語大学附属図書館	2014年1月31日
4	お茶の水女子大学附属図書館	2014年2月28日
5	神戸大学附属図書館	2014年5月12日
6	一橋大学経済研究所図書館	2014年5月23日
7	東京大学経済学図書館	2014年6月25日
8	京都大学東南アジア地域研究研究所図書室	2014年9月1日
9	千葉大学附属図書館	2014年10月10日
10	上智大学中央図書館	2014年11月1日
11	東京大学駒場図書館	2015年2月20日
12	放送大学附属図書館	2015年2月24日
13	名古屋大学附属図書館	2016年4月1日
14	関西学院大学図書館	2016年4月1日
15	早稲田大学図書館	2018年5月31日

**(3) 各種協力・交流事業**

2018年度は、昨年度に続き国立国会図書館と共催でアジア情報研修を実施（2018年11月8～9日）した。アジア情報関係機関懇談会（2019年2月22日 国立国会図書館主催）にて、「東アジア研究の学術情報環境の変化と研究ニーズ～図書館の役割」を報告し、図書館関係機関との情報共有と交流を深めた。

また、筑波大学から1名の実習生を受け入れ、図書館実務実習を行うとともに、研究所図書館業務に対する理解の促進を図った。

表V-9 図書館間協力・交流事業一覧

開催月	内容	主催
2018年11月 8-9日	「平成30年度アジア情報研修」東南アジア諸国の政府情報—日本語と英語による調査を中心に—	国立国会図書館との共催

2019年2月22日	平成30年度アジア情報関係機関懇談会にて「東アジア研究の学術情報環境の変化と研究ニーズ～図書館の役割」を講演	国立国会図書館
------------	--	---------

## 8. 資料・情報委員会

資料・情報委員会は、以下の2分科会を設けて活動した。

### (1) 図書館ウェブサイト検討分科会

研究所ウェブサイトの改革方針に照らして図書館コーナーも構造の見直しを行った。具体的には、図書館が提供するサービス（利用案内と調べ方ガイド）を中心にグループ化するとともに、図書館として目立たせたい項目である特殊コレクションと学術研究リポジトリを図書館ウェブサイトのトップページに出すことを決定した。また、ライブラリアンによる情報発信のメディアをウェブサイトに設置することを今後検討することにした。

### (2) 非刊行物整理・保存・公開推進分科会

これまでの分科会活動で策定した「非刊行物」を含む資料群の整理のガイドライン案を確定し、資料群の整理を進めた。具体的には、山崎文書のデジタルアーカイブ化の方向性について検討した。また満鉄会寄贈資料のうち、刊行物+非刊行物（＝刊行物の中に非刊行物が挿入されているもの）の整理作業が完了した。